

## 高額療養費制度のご案内～今後の見直しについて～

医療連携・患者支援センター 山下 祐理子



病気やケガにより、長期入院や高額な医療をうける際に、医療費の自己負担が高額になる場合があります。そのような時に、患者さんの負担を軽減させるための措置として、高額療養費制度があります。高額療養費制度とは、病院など医療機関や保険調剤薬局に支払った医療費が定められた自己負担限度額を超えた際に、その超えた金額を給付する制度です。自己負担限度額とは、個人の年齢・世帯・所得状況に応じて決められているもので、月ごとの窓口負担額になります。2012年4月からは、高額療養費制度の1つである限度額適用認定証の適用が入院だけでなく外来まで拡大され、被保険者の医療費軽減の制度として拡充されてきました。

さて、高額療養費制度は、上記にも述べたように所得区分ごとに自己負担の上限が定められていますが、現在の仕組みでは一般所得者の所得区分の年収の幅が大きいため、中低所得者層の負担が重くなっていることが懸念されてきました。そのため、中低所得者層に対しても、負担能力に応じた保険料負担を実現することを目的に制度改正が議論されています。

具体的には、現在、3段階となっている高額療養費の所得区分を、より細分化し負担能力に応じた医療費負担となるよう限度額を見直すことの必要性が、社会保障制度改革で議論されています。さらに、平成26年度から70～74歳の医療費の自己負担に係る特例措置が見直されたことに伴い、高額療養費の自己負担の上限額についても見直しが必要になると議論されていますが、制度改正のタイミングについてはまだはっきりと決まっていないのが現状です。

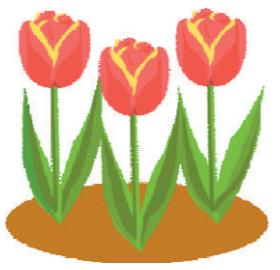
ご不明な点やお知りになりたいこと等ございましたら、当院の医療連携・患者支援センターにご相談ください。

### 外来受診のご案内

- 開院時間 8:10
- 受付時間 初診 8:30～11:00 再診 8:30～11:30  
※一部診療科では午後の受付となる場合があります
- 休診日 日曜日、祝祭日、第3土曜／創立記念日（6月10日）  
年末年始（12月29日～1月3日）
- 代表電話番号 043-462-8811  
予約変更専用 043-462-0489（平日14時～16時）
- 健康保険証（原本）、その他の公費負担受給者証（原本）を必ず持参下さい。
- 各科外来担当医はホームページ  
<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp> をご覧ください。

### お見舞いについて

- 【面会時間】**
- |        |             |
|--------|-------------|
| 平 日    | 15:00～19:00 |
| 土・日・祝日 | 11:00～19:00 |
- (2階西病棟13:00～19:00)
- 防災センターで面会手続きの上、お見舞いカードを装着してお入り下さい。
- 時間内の面会が無理な場合は看護師にご相談下さい。  
状況に応じ時間外会許可証を発行いたします。



### 編集後記

この編集後記を書いている3月末日は、お世話になった方々の退職と長年続いた昼のバラエティ番組の最終回や4月からの消費税増税前日などとが重なり、例年以上に大きな時代の変化を感じます。そして、ちょうどこの季節に咲き、散る桜を見ると、4月という時期に新しいスタートを切る多くの人々を桜が応援しているような気がして、日本の春はやはり素敵なものだとあらためて思いながら桜を眺めています。



編集・発行：東邦大学医療センター佐倉病院 広報委員会  
〒285-8741 佐倉市下志津564-1 TEL.043-462-8811(代表)  
発行月：2014年4月【年4回（1・4・7・10月）発行】  
URL：<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp>

# SAKURAdayori

東邦大学医療センター  
佐倉病院の基本理念

- 質の高い医療を安全に提供する病院
- 地域に貢献する病院
- 人間愛を共有する病院
- 楽しく明るくチャレンジする病院
- 良き医療人を育成する病院

患者の権利

- 質の高い公正な医療が受けられます
- 個人の尊厳が守られます
- 個人のプライバシーが保障されます
- 必要な医療情報の説明が受けられます
- セカンドオピニオンが保障されています
- 医療行為について自己選択ができます



## STAP細胞と治験業務

副院長 鈴木 康夫

佐倉病院は、近隣住民に対して高度・高品質な医療を安心・安全に提供することをモットーの一つにしています。

最近、日本の医学界にとどまらず世間を揺るがす大騒動になっているのが“STAP細胞”です。発表当初は、あの山中教授のノーベル賞にも匹敵する大発見とされ、i-PS細胞同様あらゆるタイプの細胞に変化可能な万能細胞が極めて容易に作製できる夢の新技術で今後の医学への貢献は計り知れないと、我々医療人を大興奮させました。しかし、その後多くの論文作製上の不備が指摘され、ついにはSTAP細胞自体存在しないのではないかという疑いすら生じているところです。なぜ、このような疑惑が噴出したのでしょうか？ STAP細胞そのものの作製に成功したかどうかの真偽はともかく、大きな疑惑の元はSTAP細胞作製に至る“経過”が不明瞭であることがあります。実験結果が素晴らしいければ素晴らしいほど、その結果に至る全ての“経過”を明らかにし四方八方からの吟味に耐える必要があります。その結果、新たな発見は大きな驚嘆と賛辞をもたらすのです。

このことは、我々が関わっている新薬の開発・臨床応用においても全く同じことが言えるのです。佐倉病院は全国有数の拠点病院として開発中の各種新薬の有効性と安全性を検証し、待ち望む患者さんに一刻も早く有効な治療薬を使用可能にする役割を担っています。その中心的業務の一翼を担うのが“治験”です。私は病院執行部の一員として、“治験”業務の責任者を担当しています。患者の皆様方が日常的に実施可能となっている

治療法は、“治験”という厳密な“経過”を経て初めて有効性と安全性が確認され実施可能になるのです。“治験”業務の中心は、厚生労働省より指示された実施計画を厳密に実施すべく、患者の皆様方に試験内容を説明しご協力を確保すること、計画どおりに試験を順守・実施、参加協力いただいた患者さんの安全性と治療経過のモニタリングすること、正確に各種医療情報の集積・分析を行うことなどがその業務内容となっています。理論的には絶対に間違なく有効と予測された新薬でも、期待どおりの結果が得られず実臨床に応用されず消えていった新薬は沢山あるのです。しかし、“治験”において最も重要なことは、結果が良かったか否かだけではなくむしろそれ以上に重要な要素が“経過”を順守しているか否かを厳しく問われることなのです。どんなに素晴らしい治療成績を発揮した新薬といえども、実施中の“経過”に不備があれば、素晴らしい治療結果にもかかわらず新薬と認められないのです。患者さんの生命に関わる新薬の開発には、徹底した安全性を担保する“経過”が重要なのです。

今回の“STAP細胞”的騒動を見るにつけ、厳肅性と公明性を肝に銘じつつ有効で安全な治療法を開発する“治験”業務への理解いただき、患者の皆様方に高度・高品質な医療を安心・安全に提供する佐倉病院の更なる発展をお示ししたいと考えております。

## 皮膚科市民公開講座～美しく健康な皮膚を保つために～

皮膚科 樋口 哲也

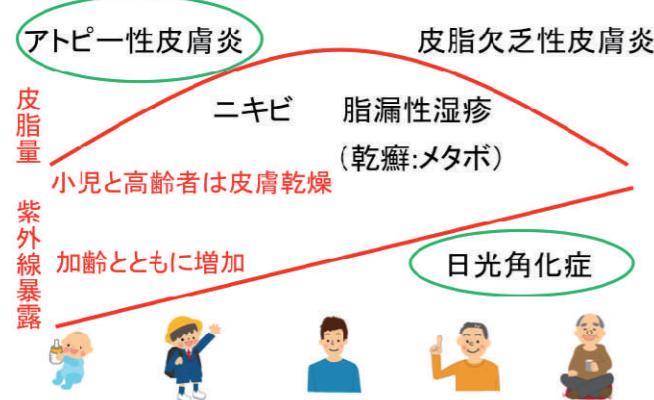


樋口准教授

2014年3月29日に7階講堂にて、「美しく健康な皮膚を保つために」というテーマで皮膚科の市民公開講座を開催いたしました。皮膚は最も身近な臓器であるものなかなかなじみのない皮膚疾患に対する関心の高さから、多くの市民の方にお集まりいただきました。

まず、私が「アトピー性皮膚炎とスキンケア」と題して、アトピー・アレルギーの予防と治療について担当しました。アトピー性皮膚炎は、アトピーハイドロキシドとドライスキンを特徴とし、慢性に湿疹を繰り返す代表的なアレルギー性の皮膚疾患です。最近の研究では、フィラグリンという皮膚の蛋白質の遺伝子異常による皮膚バリア機能の障害が、アトピー性皮膚炎の原因の一つであることが分かりました。皮膚バリア機能が障害されるとダニやハウスダストなどのアレルゲンが表皮から侵入し、アレルギー性炎症が起こりやすくなり湿疹病変やかゆみが増し、皮膚を搔くことで、更に皮膚バリア機能が障害されるという悪循環がおこります。皮膚バリア機能障害に対しては保湿剤によるスキンケアをしっかり行い、アレルギー性炎症についてはステロイド外用剤を中心とした適切な治療を行うことで、アトピー性皮膚炎を上手にコントロールし、多くは成人になる前に自然寛解することができます。コントロールの難しい場合にはステロイド外用剤とタクロリムス軟膏の併用療法、免疫抑制剤や当院に導入済みのナローバンド全身照射装置などを用いた治療、入院治療などを行っています。アレルギーの予防としてのスキンケアの重要性については、最近話題になった「茶のしづく石鹼」問題で大きくクローズアップされました。石鹼使用で皮膚バリア機能が弱まった皮膚から小麦成分のアレルゲンが体内に入り、小麦アレルギー

### 年齢による皮膚環境の変化と皮膚疾患



を発症し、小麦食品を摂取後に蕁麻疹や血压低下などの症状が出現することが分かりました。手荒れを起こした皮膚からアレルゲンが入ってアレルギーを発症するようなケースもあり、アトピーハイドロキシドを持つていても、アレルギー予防のためにもスキンケアが重要であることを強調しました。



木村助教

次いで木村助教が「日光角化症の早期診断」について講演を行いました。日光角化症という聞きなれない疾患は、長年の紫外線曝露により特に高齢者の顔面に見られる初期癌で、進行すると悪性の有棘細胞癌に進展します。近年高齢化社会になるに伴い皮膚癌の位患者数も増加傾向にあります。なかでも日光角化症の発生数が増加しています。屋外での仕事(農業や現場など)に長く従事していた方、ゴルフや海、釣りなどで野外活動をよく行う方、露出部(顔面や手背)にカサカサした赤い発疹はありませんか。湿疹などとして塗り薬を塗っていても治らない場合にもこの疾患の可能性があります。診断としては、問診・視診に加えて、当科ではダーモスコープという器械で拡大して診察し、病理組織検査で確定診断します。治療は従来の凍結療法、手術療法に加えて、最近はイミキモドクリームという塗り薬を適切に使用することで、「切らずに」治療効果の高い治療を行えるようになりました。また、将来的な日光角化症の発症予防にも日頃からの紫外線対策が必要です。紫外線が強くなるこれらの季節には、日焼け止めを使ってしっかりと紫外線予防をしてください。

皮膚は様々な刺激から体を守ってくれますが、さらに清潔・保湿・紫外線対策というスキンケアをしっかりと行うことで、ご自身で予防できる皮膚疾患は防げます。気になる皮膚症状があれば、皮膚医に相談して「美しく健康な皮膚」を保つようにしましょう。



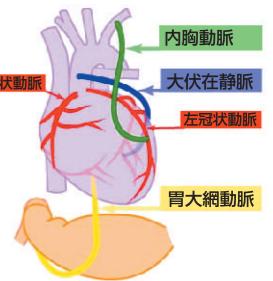
## 心臓血管外科の紹介

心臓血管外科 本村 昇



2014年2月1日より心臓血管外科教授を拝命いたしました本村昇(もともらのぼる)でございます。1961年(昭和36年)3月生まれの53歳です。これまでの略歴を申しますと、岡山県西大寺市で生まれ、小学生時代に京都府南部の京田辺市に移り、京都市内にある洛星中高等学校から京都府立医大に進みました。昭和60年(1985年)に卒業し京都府立医大第二外科に入局、研修医を経て大阪の国立循環器病研究センター心臓血管外科レジデントとして心臓外科医の基礎を学びました。研究留学では動脈硬化の研究のため米国ワシントンD.C.のジョージタウン大学に2年半滞在し、臨床留学としてシドニーのセントジョージ病院で3年間の手術修練を行いました。2000年からは東京大学心臓外科に移り、冠動脈バイパスや弁置換などの成人心疾患手術のチーフとして働いてきました。この間、全国的な仕事として心臓外科手術データベースの立ち上げ、亡くなった方から善意の提供をいただいた心臓弁や血管を凍結保存する組織バンクの設立などを進めてきました。これまで続けてきた様々な仕事を通じて拠げてきた大きな人脈を今後の診療に活かしていくたいと思っております。

心臓血管外科は外科領域の中でもリスクの高い部門です。何事も慎重かつ正確に患者さんの状態を把握することが大切です。もちろん手術での高い技術が求められます。皆様のご期待にも十分お応えできると思っております。さらには、できるだけ患者さんの体に負担をかけない手術を試みることも重要です。冠動脈バイパス術(図参照)では人工肺を使用せず心臓を止めることなく心拍動のままで手術を行うオフポンプ冠動脈バイパス術を進めています。弁膜症手術では患者さんの高齢化に伴い大動脈弁置換術では90歳を越える方も手術が可能となってきた。僧房弁手術では自分の弁を切り取って人工弁に取り替えてしまう弁置換ではなく、自己弁を残し修繕するだけで治してしまう僧房弁形成術を積極的に行なっています。大動脈瘤などの大血管疾患では、腹部だけでなく胸部の大動脈瘤に対しても安全に手術ができるようになりました。最近ではステントグラフトという折りたたんだ薄い人工血管をカテーテルを用いて大血管内に入れ込むことにより、体への負担を最小限におさえた手術が可能となっています。さらにこれからの新しい試みとして、心房細動といった不整脈に対する手術、血液透析患者さんに対して積極的に心臓手術を進め、糖尿病患者さんでの精密な血糖管理、等々さまざまな取り組みに全力を尽くしていきたいと思っております。心臓外科は怖いところだと思われず、是非気軽に声をかけてください。よろしくお願い致します。



### 2014年 市民公開講座のお知らせ(入場無料・申込不要・200席)

開催予定日	講演予定テーマ	担当
4月26日(土)	地域で考えるケアと治療 「歩行障害と共に歩む～診断と治療」	神経内科・脳神経外科・整形外科・薬剤部・リハビリテーション部・看護部・メディカルソーシャルワーカー
5月31日(土)	「糖尿病治療の最前線」 ～食事療法・最新の薬物治療から肥満外科治療まで～	糖尿病・内分泌・代謝センター
6月14日(土)	「お父さんの健康を考えよう!」 ～前立腺の病気を知ろう～前立腺肥大症・前立腺がん～	泌尿器科
7月26日(土)	地域で考えるケアと治療 「頭痛は怖くない～診断と治療」	神経内科・脳神経外科・放射線科・薬剤部・リハビリテーション部・看護部・生理検査・臨床心理・ソーシャルワーカー
9月27日(土)	「がん撲滅キャンペーン」～最新のがん治療～	外科・他
10月25日(土)	「最新の放射線治療」	放射線科・他

ほぼ毎月、身近な疾患や症状をテーマにした市民公開講座を企画しております。多くの方にご参加いただき、病気の予防や早期発見、普段の生活に役立てていただければと考えております。

いずれの講座も14時から当院東棟7階・講堂で開催いたします。詳細は、テーマごとに院内掲示およびホームページなどでご案内いたします。お問い合わせや講演テーマのご要望がございましたら、総務課にご連絡下さい。